

東日本大震災津波犠牲者に捧げる歌

世界へ飛び立つまでの道のり

—「鎮魂の歌」はエスペラントになって世界へ—

「鎮魂の歌」 <日本語の楽譜を受け取ってから エスペラントの楽譜ができるまで>

横浜エスペラント会 牧野三男

2012年10月6日（土） 札幌市で開催された第99回日本エスペラント大会で、久しぶりに再会した堀泰雄さんから一枚の楽譜を受け取った。空色用紙の「鎮魂の歌」である。その楽譜を一見した第一印象は「未来へ羽ばたく楽譜」ということだった。

10月13日（土） ハマロンド歌唱グループの定期練習で Esperanto の歌に続き、初めて「鎮魂の歌」を学習した。旋律を憶えるだけだったが、翌日歌唱メンバーの根岸幸子さんから次のようなメールが届いた。

<昨日の「鎮魂の歌」は心に沁み入る曲ですね。歌っていて思わず涙が溢れそうでした。

暗いという見方もあると思いますが、私はこの曲を創られた方々が被災地の方であれば当然のように思います。恐らく被災地以外の人には理解し得ない心の痛みがあるのだと思います。敢えて「明るく」する必要はないと思うと同時に、このような感情を「暗い」と捉える事には違和感さえ覚えます。この歌はそのままそっとしておいて 元気の出る歌は他にあれば良いと思いました。以上が率直な私の感想です。

このメールを受けて私は、直ぐ小西 岳さんに「鎮魂の歌」エスペラント訳を依頼した。



【太田代政男さん（左）と牧野三男さん（右）】

10月17日 小西岳さんより「鎮魂の歌」

Esperanto 歌詞, Esperanto 楽譜が届いた。依頼して僅か4日後の驚くべき作品である。その楽譜を直ぐ堀泰雄さんに転送すると、その日のうちに岩手県の高館千枝子さんからメールが届いた。そこで「鎮魂の歌」が誕生した経緯、来年3月11日「鎮魂の歌」を日本国中で歌う具体的な企画を初めて知った。

高館さんの真心に打たれて私は、直ぐ友人の島

田桂子さん（現横浜少年少女合唱団代表）に協力を要請した。

10月20日（土）歌唱グループで「鎮魂の歌」（日本語版）を収録。

10月21日 高館さん発送の範唱CDと前日の収録を素材に「鎮魂の歌」DVDを制作。

10月24日 高館さんより連絡。10月30日午前、盛岡駅前であう約束を交わした。

10月27日、仙台市「秋保の郷」で第53回東北エスペラント大会が開催された。

その大会で私は堀さんとコンビを組み「La Esperoを暗唱する」分科会を立ち上げた。

「La Espero（希望）」は全世界の人々に希望と夢を与えるエスペラント語の道しるべである。「鎮魂の歌」の感想を述べた根岸さんが言う「元気の出る歌」が正にこれに当たる。

この大会で、参加者全員対象のLa Espero歌唱練習が初めて実現した。その結果、参加者が一番歌いやすいLa Esperoの調は「変ト長調」（b6）ということが判った。「変ト長調」は黒鍵使用で有名な「猫ふんじやった」の調である。楽譜が読めない子どもでもこの曲なら弾ける子供が多いが、La Esperoはそんな不思議な調に向いた曲だった。

10月28日、東北エスペラント大会最後の締めくくりは「東日本大震災被災地の視察」だった。

私達はバスで仙台市閑上（ゆりあげ）地区を視察。今なお残る被災地の惨状に誰もが言葉を失った。被災地の惨状を留める学校、民家、寺、街、地蔵等に直接接触した参加者には忘れ得ぬ体験となった。

「ゆりあげ」で巨大津波に襲われながらも九死に一生を得た若者が集会所で私達に、その体験を語ってくれた。淡々と説明する彼の姿が目に焼き付いて離れない。私は降りしきる小雨の中、閑上地区の現状を夢中でビデオカメラに収めた。

10月30日午前、盛岡駅前が高館千枝子さんと「鎮魂の歌」作曲者の太田代政男さんが私を暖かく出迎えてくれた。早速駅前喫茶店で三人が対談。テーマは＜合唱団や学校に受け入れやすい「鎮魂の歌」改訂版作成＞について。校正箇所とその理由を説明し太田代さんの了解を得た。改訂版楽譜作成は太田代さんが引き受けたがそれは初稿まで。校正の繰返しには時間が掛かり過ぎるので、その面倒な作業を神戸市の森山華伊さんをお願いした。

11月18日 森山華伊さんによる「鎮魂の歌」改訂版楽譜完成。（ピアノ伴奏付3頁）

12月4日 小西岳さんによる「鎮魂の歌」改訂版エスペラント楽譜完成。（ピアノ伴奏付3頁）

12月7日 小西岳さんによる「鎮魂の歌」改訂版エスペラント楽譜完成。（歌唱譜1頁）

12月9日 山田義さんによる「鎮魂の歌」改訂版日本語楽譜完成。（歌唱譜1頁）

12月15日（土）小田原市で開催される「かながわザメンホフ祭2012」で「鎮魂の歌」改訂日本語版と改訂エスペラント版を横浜エスペラント会歌唱グループが発表する。

大会参加者も一緒に歌えるようにと、小田原エスペラント会々長・奥津晋太郎さんが下記楽譜を参加者数無償で印刷協力してくれた。

- ① La Espero（希望）
- ② ラ・エスペーロ（伴奏付2頁）
- ③ 「鎮魂の歌」歌唱譜
- ④ “Rekviemo”歌唱譜
- ⑤ 「鎮魂の歌」歌詞
- ⑥ “Rekviemo”歌詞
- ⑦ 蜜蜂の子の巣立つ朝（Jpn Esp）
- ⑧ 蝶蘭の花（Jpn Esp）

「鎮魂の歌」も「ラ・エスペーロ」も作詞・作曲者の願いは同じである。
「心の安らぎを求め、この世から争いごとを無くす」という人類普遍の願いを込めて、
世界中の平和愛好者達が手を携え3月11日前後にこの歌を歌って欲しいと願っている。

～ 終 ～

★「鎮魂の歌」日本語版 (<http://...>で表示)・・・2012/12/10 1:08 Mail 添付資料

★「鎮魂の歌」エスペラント版(<http://...>で表示)・・・同上

★「^ラ ^{エスペーロ} Espero 希望 (子どもたちの未来のために) 」(<http://...>で表示)・・・12/14 1:29Mail 添付資料

大震災への鎮魂歌、世界へ

堀 泰雄

高館千枝子さんは、被災県岩手に住んでいますが、被害は受けませんでした、しかし、震災の被災者の悲惨な状況を知り、釜石市唐丹の子供 130 人を助ける運動を始めました。その運動は現在も続けられていますが、今年にはあらたに「東日本大震災の鎮魂の歌」を日本だけでなく世界へと広める運動を始めました。

「鎮魂の歌」は、岩手の退職高校長会によって作詞・作曲されました。私は、なんだか古臭い歌詞なので、あまり積極的になれず、しかし高館さんの手前もあるので、とりあえず、横浜でコーラスの指導をしているエスペランチストの牧野三男さんに楽譜を手渡しました。牧野さんは気に入ったらしく、楽譜をすぐに、有名なエスペランチストで歌詞の翻訳の第一人者の兵庫県の小西岳さんに送り、翻訳を依頼しました。すると3日もたたないうちに翻訳が送られてきました。また西川悟さんは、「初音ミク」が歌う「鎮魂の歌」をニコニコ動画などに載せてくれました。こうした動きをみて、私も、この歌は人を引き付けるものがあると確信し、積極的に取り組むことにしました。



【12月13日唐丹小中学校を訪問した堀泰雄さん(中央)】

高館さんは、最初、英語に訳したいと、もと英語の教師の私に頼んで来たのですが、私は、歌などを英語で訳したこともないし、専門的なことだからと断り、代わりにエスペラントに訳したらどうかと考えたのです。英語だと、せいぜい英語を話す国にしか広まりませんが、エスペラントの訳があれば、世界中に広めることができるし、エスペラントからその国の言語にも翻訳ができます。

世界のエスペランチストの皆さん、
来年の3月、震災2周年に合わせて、

あなたのエスペラント会の中や知り合いに訴えて、この歌を歌ってはもらえないでしょうか。この歌を歌うことは、亡くなった方への鎮魂であり、今も苦しんでいる方々への激励であり、反原発への戦いであり、そしてエスペラントの持つ力を内外に示す絶好の機会でもあります。

楽譜を添付しました。YouTube とニコニコ動画のアドレスも付けましたので、ぜひ歌ってください。

上のメッセージを、世界のエスペランチストの友人 400 人以上に、12 月 10 日昼過ぎに送信しました。夕方には、フランスから、ギターをやっているの、習って歌いたい、というメールが返ってきました。エスペラントの世界はこんな風に暖かく積極的なのです。きっと多くの人が答えてくれるでしょう。

「鎮魂の歌」を動画化して

西川 悟

僕が、「東日本大震災犠牲者に捧げる鎮魂の歌」（以下「鎮魂の歌」と略記）の動画作成で担当した部分は、ボーカロイドソフト¹（初音ミク）への歌詞の入力と、動画の編集です。

あの3月11日、僕は広島県に住んでいたの揺れは全く感じず、後になってインターネットのニュースで知ることとなりました（当時、僕はテレビを持っていませんでした）。当時はニコニコ動画²により、NHKのニュースの配信が行われて、それをずっと聞き流していたものです。東日本（東北、関東など）では大変な事態になっており、特に福島県では酷い原発事故が起きている事そのニュースで知ったものです。地震が起きてあまり時間が立たない時に、ニコニコ動画のユーザーの間でみんなで募金を行おうという動きが自発的に生まれ、「ニコニコ募金」（ニコニコ募金用動画 <http://www.nicovideo.jp/watch/sm13848574> が作られ、その動画への「広告」という形で募金を行っていた）が生まれました。僕も少しでも力になればと思いその募金に協力したものです。原発事故についてはニュースではなかなか詳細なことが分からず、また、詳細なことが明らかになればなるほど大変なことになっていた事を知り、今まで疑問を持たず原発を推進していた政府や電力会社に対し腹を立てたものです。

さて、僕は、Projekto Jupitero（木星プロジェクト）という、エスペラント語の曲をボーカロイド曲の形にすることで、エスペラント界に浸透させていこうというプロジェクトに参加しています。ですので、今回の「鎮魂の歌」の楽譜と歌詞がエスペランチストの知人により配布される事を知った時に、この曲をボーカロイド曲化し、エスペラント界に広めることができるのでは、と思い早速僕宛てへのファイルの送付をお願いしました。実際にそれらを手に入し、聞いてみたところ、配布された音楽ファイル（MIDI ファイル）だけでは、息継ぎがやたらと多い曲だな、といった感じで、いまいちピンと来なかったのです。やはり曲に歌詞をつけて見ないとどんな曲かわからないのかな？と思いました。早速、配布された音楽ファイル（MIDI ファイル）をボーカロイドソフトに読み込ませ、日本語歌詞を入力させてみました。そして、ようやく、こういう曲だったのか、と思ったのです。僕は当初、エスペラント界に広めるためにエスペラント語訳された歌詞で発表することを第一に考えていましたが、この曲そのものが、恐らくこの歌の生まれた地元岩手県以外には全くと言っていいほど知られていないであろうという現実を考え、まずは日本語歌詞版を発表し世界中に広めようとするよう

になるに至り、それを **Projekto Jupitero** のメンバーに提案したものです。

ミクの調教（調整）は、音量の調整以外殆ど変更しませんでした。かなり聞けるものができると思っています。動画の編集については、仕事などで経験したことがあったので、途中の写真追加の要望が出された時もそれほど困難な事がなく仕上げることができました。将来的には、この曲のエスペラント訳化版、そして、合唱版とオーケストラ伴奏版を作る予定です。

この「鎮魂の歌」の動画が、東日本大震災を風化させることなく後世に長く引き継ぐ助けになればと思っています。

注1. パソコンにより、架空のキャラクタ（歌手）に歌を歌わせる事ができるソフトウェア。そのキャラクタの中でも「初音ミク」は世界中で最も有名である。

注2. 日本で国内最大級の動画投稿サイト（<http://www.nicovideo.jp/>）。現在では動画投稿機能だけでなく、ライブストリーミング配信（生放送配信）などの機能を持っている。「鎮魂の歌」の動画はこのニコニコ動画と YouTube（<http://www.youtube.com/>）で公開している。

「鎮魂の歌」と私

林周行（はやしかねゆき）

- ・ **【GUMI】** 東日本大震災犠牲者に捧げる「鎮魂の歌」 <https://www.youtube.com/watch?v=9IDmSeWG8Rc>
- ・ Megpoid English による「鎮魂の歌」
エスペラント制作 ROKMSA1: <https://www.youtube.com/watch?v=ubFqipTIFrg&feature=youtu.be>
- ・ **【GUMI】** "Rekviemo" al la viktimoj de la Granda Tertremo en la Orienta Japanio
<http://www.nicovideo.jp/watch/sm21232471>

YouTube やニコニコ動画で公開されている初音ミク版「鎮魂の歌」のピアノ伴奏データを作成した林です。「ピアノ伴奏データの作成」といっても、ピンとこられないかたもいらっしゃると思いますので、まずはこの説明から始めます。

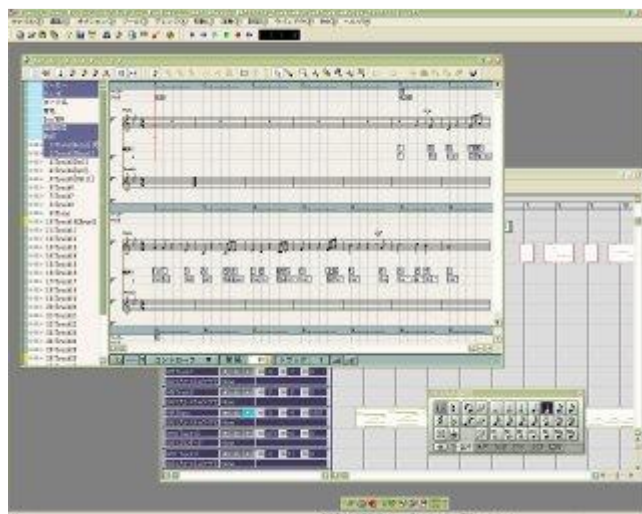
このデータの作成には、パソコンの「シーケンサー・ソフト」というものを使っています。その気（と能力）さえあれば、パソコン上で合成音声によるフルオーケストラの曲を作成することも可能なソフトです。このとき電子楽器とパソコンをつないで、実際の演奏情報をそのまま入力する方法もあるのですが、私のピアノの腕前ではたいした「伴奏」はできませんし、そもそもそのためのハードウェア環境がないので、パソコンのキーボードとマウスで入力して作っています。ということで、いささか「自然なゆらぎ」に欠ける音楽になっていますが、ご勘弁を。



YouTube やニコニコ動画で公開されている初音ミク版「鎮魂の歌」のピアノ伴奏データを作成した林です。「ピアノ伴奏データの作成」といっても、ピンとこられないかたもいらっしゃると思いますので、まずはこの説明から始めます。

いっぽう、私自身は持っていないのですが、「ボーカロイド・ソフト」（たとえば「初音ミク」）というのがあります。こちらは「歌専用のシーケンサー・ソフト」と考えてください。つまり、合成歌声による「アカペラ・データ」を作るソフトです。この「初音ミク」を持っておられたのが、エスペラント関連のおつき合いでインターネット上で知り合っていた広島にお住まいの西川悟さんでした（私は大阪在住）。

実は、半年あまり前から、西川さんが作った初音ミクによるエスペラント歌詞の歌データと、私が作った伴奏データとの組み合わせて楽曲データを作り、ニコニコ動画やYouTubeで公開する、という活動をやり始めていました。そうしたときに、高館千枝子さんとエスペランティストである堀泰雄さんとのつながりを通して知ったのが、この「鎮魂の歌」です。それまでの楽曲作成作業のノリ(?)で、まずはオリジナルの日本語歌詞でデータを作ろうか、といった感じでこの曲に関わり始めたのが最初のいきさつです。高館さんから、「鎮魂の歌」に対する思いを寄稿してください、とのことでこの原稿を書いているのですが、はずかしながら、最初は「思い」というほどの深い「思い入れ」があったわけではないです。実際、高館さんにミク版「鎮魂の歌」のことをお知らせしたときに非常に喜んでいただいて、こちらが恐縮してしまったくらいです。



でも、演者自身が気づいてないところで感動を生む、

でも、演者自身が広く言えば聞き手にいろいろな影響を与えることができるのが「音楽」かな、と思っています。少しはなしはそれですが、たとえば、以前私が所属していた合唱団で次のようなできごとがありました。

私がその団に入団する前のときの話なのですが、あるとき、この合唱団の団長宛に、この合唱団のベートーベン第九のコンサートを聞いて非常に感激したという手紙が来ました。実はこの手紙の送り主は、以前大阪で起こった銀行強盗事件ⁱⁱの被害者のかたでした。猟銃を持った強盗に4人の同僚行員が殺され、その人自身も右腕に重症を負ってリハビリの毎日を送っていたのです。ところが、ある日お医者さんから、「右腕を上げる神経がマヒして回復する見込みがないので右肩を固定する」という宣告を受け、すっかり失望のどん底に突き落とされました。そんな気持ちを紛らわすために、このかたが聴いた曲が、ベートーベンの第九交響曲です。ご承知のように、この曲を完成させたとき、ベートーベンはまったく耳が聞こえなくなっていました。このかたもそのことを思い、「自分は右肩が動かなくなるだけではないか」と励みにしたそうです。

そしてある年の暮れ、生演奏の第九を聞くためにこの合唱団のコンサートに来られたのです。第4楽章で曲が盛り上がり、コーラスの声のひとつ高まったときに、指揮者の左手がまっすぐ上を指し示すのを見て、思わず天国にいる4人のことを思い出されたそうです。そして、天国の4人もこの曲を聞いているのではないだろうか。いやきっと聞いてくれているに違いない、そう思うと涙が止まらなかったということです。

歌っているのはアマチュアの合唱団です。みんな歌うのが好きで歌っているわけです。まさか観客の中に、ここまで思いつめて涙を流してくれているかたがいるとは、夢にも思わなかったでしょう。でも、聞くかたがたがあつての音楽です。ですから、音楽をやるからには、「音楽好きの自己満足」にとどまっていたはだめだと思います。ここまで感動していただけるかはともかく、聴くかたに訴えることを意識することが大切です。そして、いろいろな形で感動してもらえることが、音楽に関わったものとしての最高の喜びではないか、とつくづく感じさせられた話でした。

ここで30年余り前の話を持ち出したのには理由があります。今回私たちが作成したミク版「鎮魂の歌」の映像には、被災地の写真が入っています。当初の「試作版」には入っていませんでしたが、高館さんからこの写真を使ってくださいとのことでつけ加えました。この映像を見た高館さんは、メールで「写真が映し出されたたん、涙がこみ上げてきました。辛かった震災直後を思い出しました。この気持ちを持ち続けて、支援活動を出るだけ長くしなければならぬと、改めて感じました。」と書かれてこられました。このメールを読んで、私はすぐに、3

0年以上前の第九で涙を流されたかたの話を思い出した、というわけです。

別に「音楽」の分野に限ったことではないです。自分のふとした発言、ふとした行動が巡り巡って、意外なところで意外なひとに感動や影響を与えることがあると思います。もちろん、「大きな影響」にまでなることは、そうしょっちゅうあることではないでしょう。しかしこの「鎮魂の歌」に関わったことで、お互いに大なり小なり影響を与えたり与えられたりしながら、いろいろなかたがたとつながっているのが「人生」なのだ、とあらためてつくづく感じさせられました。これからも、このことを意識して音楽その他の活動に関わっていきたいと思います。